

町長室から

越生町長
新井 康之



上町・仲町の道路拡幅工事 完成

花秀さん脇町道（2-29 号線通称和田横丁）の拡幅工事が完成しました。

この道路は、以前から道路幅が狭く通学、歩行者、車の出入り交差に危険な状態でした。このような状態を解消するための工事を進めてきましたが、この度完成しました。

利用者の皆様から、通行が楽になったと好評を得ています。ご協力いただきましたすべての皆様に厚くお礼申し上げます。



完成後の状況

クビアカの早急な対策を国に要望 国も対策本部立ち上げ

クビアカツヤカミキリ（以下クビアカ）は、幼虫がサクラ、ウメ、モモ、アンズ等のバラ科の樹木に侵入します。そして中を食い荒らし、やがてその樹木を枯らしてしまいます。5月から9月頃に成虫になって飛び出し、一匹が300から1000個の卵を産み、1時間に3キロメートル飛び、車の中に入ると50キロ、100キロの移動は容易です。外来生物のため天敵はいません。拡散力は大変なものです。

私は、早くから埼玉県での会議で、このことを指摘してきました。そしてその対策を、農林水産大臣や埼玉県知事に要望してきました。そのためか、県はクビアカに関して、11億円もの補正予算をつけてくれました。

また、埼玉県町村会・全国町村会でも危機感をもち、迅速に対処してくれ、6月24日、全国町村会長と県町村会長と私で、国の実務のトップである農水省と環境省に要望に行きました。その結果、政府はクビアカ対策本部を立ち上げ、被害の抑え込みを急ぐことになりました。

町でも、私が先頭に立ってクビアカと戦っています。県知事は、私のことを「クビアカ町長」と言われているそうです。

クビアカから梅・日本の桜等を守るため、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。（クビアカの詳細はP2～3 参照）



国に要望書の提出

清和学園 梅の駅で 「高校生レストラン」開く

清和学園高等学校調理科の生徒が、6月23日・7月7日の2回「高校生レストラン」を開き、学習の成果を披露しました。場所はうめその梅の駅。

同高校は、文部科学省のマイスターハイスクールに指定され、3年間の期間が終了し、その成果を活用しています。

6月23日のメニューは、本町特産の梅と柚子を素材にした「梅だれつけ麺」。麺（パスタ）の茹でかたも良く、たれも梅と柚子の香りがほのかに効いて、とても美味しかったです。

7月7日は越生べに梅を素材にした「べに梅カレー」。私の越生べに梅に対する想いを形にしてくれました。梅の酸味が程よく効いて美味しかったです。初の試みなので2回とも30食の限定でした。

まだまだ多くの企画があるとのこと、更なる展開を期待します。



店内の黒板メニュー

連覇達成！

越生消防団 ダブル優勝の快挙！



越生消防団が「連覇」を達成しました。

6月21日（日）、第23回埼玉県消防協会西入間支部消防ポンプ操法大会・訓練報告会が毛呂山総合公園で開催されました。大会の結果、前大会に続いて「ポンプ車の部」で越生消防団第4分団、「小型ポンプの部」で越生消防団第6分団がそれぞれ優勝し、「連覇」を果たしたほか、越生消防団第3分団が「ポンプ車の部」で準優勝に輝くなど、大活躍を見せました。

当日は、埼玉県消防協会西入間支部（毛呂山町・越生町・鳩山町）の消防団員が火災現場を想定した放水による消火活動を行い、動作の確実性や、放水によって標的を落とすまでの所要時間を競いました。「ポンプ車の部」に5隊、「小型ポンプの部」3隊が出場し、各分団が日々の訓練の成果をぶつけ合い、正確さとスピード、そして連携の美しさを競い合いました。

この「連覇」の偉業達成は、今までにない越生町の快挙となり、越生消防団の消火能力の高さを表しています。操法大会を通じて培われた消防技術は、火災や大雨等の自然災害の際に存分に発揮され、私たちの大事な生命や財産を守ってくれています。

訓練の成果を発揮！ 白熱の操法競技



迅速・確実な操作

各隊員が連携し、素早く正確な動作でポンプ操作やホース延長を行います。



放水は力強く

火点に向けて力強い放水！
日頃の訓練の成果を発揮します。



最後まで気を緩めない

息を合わせた敬礼で操法を締めくくります。

最優秀選手

ポンプ車操法の部

指揮者	越生消防団第3分団 石井 健太選手
1 番員	越生消防団第4分団 金子 颯杜選手
2 番員	越生消防団第4分団 石川 裕也選手
3 番員	越生消防団第2分団 小峰 靖侍選手
4 番員	越生消防団第4分団 酒本 拓也選手

皆さん、おめでとうございます！

越生消防団 島野純一団長のコメント

前回大会では、越生消防団のダブル優勝という今までにない快挙を果たすことができました。このような中、今大会に挑んだ越生消防団は、前回優勝分団としての計り知れないプレッシャーの中で、自身の仕事や家庭の時間を割いて訓練に打ち込んできました。私は、この消防団員の姿を、ずっと見てきました。その努力が今回、「連覇」という最高の形で実を結んだことを消防団長としてこれ以上なく誇りに思います。

操法大会はタイムや正確さを競うものですが、ここで培われた「規律」や「迅速かつ確実な技術」は、実際の災害現場において安全で確実な消防活動を行うための礎となるとともに、団員一人ひとりが自らの身を守るための「自助」の力を養うことにもつながります。

次回大会となる令和10年度は、県大会、更には全国大会へとつながる大切な大会となります。今回の経験と勢いを力に変え、越生消防団がさらに高い目標に向かって挑戦してくれることを大いに期待しています。私も団長として、その挑戦を全力で支えて参ります。このモチベーションを保ち、越生消防団が丸となって、町民の皆さまの生命・財産を守っていく所存です。

最後に、操法大会・訓練報告会の練習ができることが当たり前ではなく、関係各位並びに団員のご家族の皆さまのご協力があるからこそです。心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

